

クロスカンリースキー競技における世界トップ選手と日本人選手との競技成績の比較
Comparison of race results for World top skiers with Japan skiers in cross-country skiing

1K08B219-0 柳 館 万智子

指導教員 主査 土屋 純 先生 副査 宮内 孝知 先生

【緒言】

クロスカンリースキー競技は、日本では競技人口が少ないマイナースポーツである。また、国際大会での日本選手の競技レベルが世界トップレベルに及んでいないのが現状である。過去にも、オリンピック等の世界大会で優秀な成績を残した選手がおらず、世界大会で活躍した選手の足跡を知ることが困難である。世界で活躍する選手が、どのようにして世界トップの選手に成長したのか知ることができれば、選手の年齢に応じた成績目標を設定することができる。また、現在の日本人選手と世界トップ選手との競技成績を比較することによって、日本人選手の問題点を抽出することが可能となる。

そこで本研究では、世界トップ選手および日本人トップ選手のジュニア期から現在までの競技成績を調査し、それらを比較することで、世界トップの競技成績を獲得するための知見を得ることを目的とした。

【方法】

調査の対象は、2010 年バンクーバーオリンピックの女子 30km 競技と女子スプリント競技の上位 10 名の選手、および現在の日本ランキング上位選手 10 名とした。調査方法は、国際スキー協会 (F.I.S.) の公式ホームページ (<http://www.fis-ski.com/>) の選手情報を用いて、F.I.S.公認競技会のうち、オリンピック、世界選手権、ワールドカップ、U-23 世界選手権 (参加年齢：20~22 歳)、ユニバーシアード選手権 (参加年齢：18~22 歳) および世界ジュニア選手権 (参加年齢：~18 歳) における世界トップ選手の成績、および日本人選手の成績を調査した。

【結果・考察】

調査の結果、世界トップ選手は、世界ジュニア選手権では、女子 30km 競技の選手は、出場回数にはばらつきがあるものの、10 位以内の成績であった。また、女子スプリント競技では、女子 30km 競技の選手と比較して出場回数が多い傾向がみられ、20 位以内の成績であった。U-23 世界選手権およびユニバーシアード

選手権への参加がほとんどみられなかった。これは、上位の競技会であるワールドカップへの参加や、大学へ進学せず、プロ契約を結ぶ選手が多いためであると思われる。一方、日本人選手では、世界ジュニア選手権で 20 位以内の選手はほとんどみられなかった。また、U-23 世界選手権、ユニバーシアードに参加する選手が多くみられ、20 位前後の成績を獲得していることが示された。しかし、世界のトップ選手が参加していないことから、これらの競技会への出場は世界トップの成績を獲得するために重要ではないこと、これらの競技会を目指すのではなく、上位の競技会を目指すことが重要であることが示唆された。

また、バンクーバーオリンピックにおいて 10 位以内に入賞するまでに、女子 30km 競技および女子スプリント競技では、オリンピック、世界選手権、ワールドカップで、10 位以内の競技成績を数度獲得していたことが示された。また、女子 30km 競技では、比較的順位変動が小さいのに対し、スプリント競技では、順位変動が大きい傾向がみられた。一方、日本人選手では、選手 2 名が 10 位以内の成績を獲得しているものの、他の選手は 20 位以内の成績を獲得していなかった。つまり、上記の 2 名は、バンクーバーオリンピックにおいて 10 位以内の成績を獲得する可能性があることが推察される。結果的に、1 名の選手が 5 位入賞したことは競技成績の変遷からみても妥当な結果であるといえる。

【結論】

本研究の結果から、オリンピックで 10 位以内の成績を獲得するためには以下の 3 点が重要である。

- 1). ジュニア期に 30km 種目では 10 位以内、スプリント種目では 20 位以内の成績を獲得すること。
- 2). U-23 世界選手権、ユニバーシアード選手権より上位の競技会に出場すること。
- 3). オリンピック、世界選手権、ワールドカップでは、数度 10 位以内の競技成績を数度獲得すること。